

目指す学校像	地域から愛される東大成小学校…どの子どもにとっても潤いのある楽しい学校・保護者だれもが協力的で安心な学校・子どもを取り巻く大人がやりがいいっぱい学校
--------	--

重点目標	1 「為すことによって学ぶ」 2 「Well-being (一人ひとりの多様な幸せ) を実現する」 3 「体力・運動能力を向上する」 4 「集団活動を充実する」
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標							実施日令和6年2月5日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
① 学力向上	(現状) ○令和4年度全国学力学習状況調査(教科に関する調査)結果では、全国平均程度であったが、市平均と比較し国語・算数・理科ともに下回っている。 (課題) ○読み取る力や考える力を高める必要がある。 ○基礎的・基本的な学習内容の定着、個別的な教育支援を必要とする児童への適切な教育の提供や学習環境の整備、ICT機器等を活用した個別最適な学びを進めるための支援体制等の更なる構築を推進していく必要がある。 ○「STEAMS TIME」の指導法については、教職員から「指導法についてより一層の研究を深めたい」という声があり、さらなる工夫改善に加え、各種便りや授業参観等を通して保護者や地域へ情報を公開していく必要がある。	・ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現し、基礎学力を向上させる。 ・体力を向上させる。	①STEAMS教育を中心にICT機器を活用した「アクティブ・ラーニング」型授業を行い、主体的・対話的で深い学びを進める。(通年) ②教室プロジェクターを活用し、主体的に読む活動を文献や図表、データ等から読み取る力を育て、読解力を向上させる。(通年) ③金融経済教育における探究的な学びについて、研究を深める。 ④基礎学力タイムで、学習アプリを活用し、個に応じた学習課題の習得を行う。(通年)	①学校評価「基礎学力向上」90%以上 ②市学力学習状況調査全学年平均点市平均以上 ③第5学年金融教育授業6時間の実施と体験学習としての「子ども商店」における体験出店件数10店以上 ④スタディサブリ課題取組時間全学級月平均4時間以上	①学力向上に向けた取組の肯定的評価 児童94%、保護者62%、教職員93%。 ②全国学力・学習状況調査結果では、市平均と比較すると、国語は下回り、算数は1ポイント上回っている。 ③第5学年金融教育授業を6時間実施した。「子ども商店」出店件数9店 ④スタディサブリ課題取組時間全学級月平均以上	A	令和5年度全国学力・学習状況調査結果では、市平均と比較すると思考・判断・表現に関しては、国語は同程度、算数は若干下回っている。「アクティブ・ラーニング」型授業の実践が一定の成果につながっていると考えられるが、今後も、読み取る力や考える力を中心に高めていく。 また、個別的な教育支援を必要とする児童への適切な教育の提供や学習環境の整備、またICT機器等を活用した個別最適な学びを進めるための支援体制等のさらなる構築を推進していく必要がある。	楽しく学習に取り組む中で、達成感を味わわせ、学力の向上につなげてほしい。 さいたま市の施策である様々な取組を実施することができている。特に、タブレット端末を授業で積極的に活用することができていた。今後は、基礎的・基本的な学力向上に向け、SS(スタディステーション)の環境整備、支援ボランティア体制づくり等を学校とPTAが協力し実施していきたい。
2 安心・安全	(現状) ○PTA会計と連携を図りながら、会計監査は、実施している。 ○設置後50年を経て錆による腐食の激しい遊具が存在する。 (課題) ○適切な予算執行について、さらに学校とPTA間で適切に行われる必要がある。 ○老朽化した遊具や施設・設備等の修繕による環境整備は学校施設担当所管と連携し継続していく。(本年度、一部遊具撤去申請済み。)	・適正な予算執行の下、教育環境整備を行い、職場環境を改善する。 ・老朽化遊具の撤去により、安全性を確保する。	①予算執行は、校内会計モデルに基づき、児童の教育への必要性を検討するために予算会議をとおして手続きを厳正化する。(通年) ②備品登録に漏れないように、新規登録備品の管理を教員と事務職員とで相互確認する。(夏休中・年度末)	①予算会議実施と適切な申請手続きによる会計事故未然防止と年2回の会計監査の実施 ②備品台帳による現物確認の実施	①予算要望を踏まえて適切に執行した。会計監査は年3回行った。 ②夏休中、備品台帳により現物確認を行った。	A	今後も、会計監査を学期ごとに年間3回行うことで、適切な予算執行につなげていきたい。 古くなった備品に関して計画的に入れ替えていく必要がある。	施設の点検を行い、修繕が必要なものは適宜行っていく必要がある。 学校評価の中で、安全・安心に関わる項目での否定的回答について、内容を分析し今後の対応に繋げてほしい。
3 地域とともにある学校づくり	(現状) ○新型コロナ対策が変更となり、各種ボランティアが再開したが、教職員はどのようなボランティアが存在しているのか、またどのようなことができるのか把握していない。 (課題) ○地域の社会人講師リストを教職員間で共有し、その情報をベースに加除修正を積み重ね更新すること、また、年間指導計画に位置付け、指導内容とリンクするような情報共有を教職員間で行うこと等が必要である。 ○子どもを取り巻く大人ができることを考え、実践していくという共通理解を継続していくことが求められる。	・PTA学習ボランティアと連携した継続的な学習支援を行い、児童の学びへの意欲を高める。 ・外部講師による授業を取り入れ、児童の深い学びを定着させる。	①学校運営協議会を活用し、業間休み及び週2回のロング昼休みで学習ボランティアが企画したスタディステーションでの学びの時間を運営したり、地域に在住する社会人講師を積極的に取り入れたりすることでコミュニティ・スクールを推進する。(2・3学期) ②SAを活用した個別指導と学習ボランティア及びアシスタントティーチャラーの活動を一元化し、総合的な支援体制を確立する。(通年)	①学習ボランティアの各学期1回以上のイベント実施 ②学校評価「地域連携・外部講師授業の実施」学校評価70%以上 ③本校の総合的な支援体制の確立	①各学期1回イベントを実施した。 ②肯定的回答 保護者62%、教職員87%。 ③SA、学習ボランティア、アシスタントティーチャラーの活動を一元化し、適切な学級に配置することができた。	B	スタディステーションにおいて、PTAと連携して学習ボランティアを募集し様々なイベントを企画・実行していきたい。 Sola るーむの活用について保護者や地域との連携を深めていきたい。	Sola るーむの活用を進めてほしい。 来年度も外部企業との連携を進んで行う中で、体験的な学びを積極的に取り入れ、主体的・対話的で深い学びを実現する。
4 教職員の資質向上	(現状) ○Teams等による各種デジタル化(ライブ配信やファイルの共有等)なども含め、校務用端末を利用した業務のスリム化はかなり進んでいる。 (課題) ○これまで培ってきた指導方法や従来の価値観からの脱却ができない教員には、令和の日本型学校教育の在り方を踏まえ、ICTの活用を生かした個別最適な学びの実現に向けての授業改善を促し、勤務時間の中で「できること・やるべきこと」等をより一層精査し、見直しをもって業務にあたることが強く求められる。	・ICT活用による授業改善と評価方法の見直しにより業務改善する。 ・教職員のWell-beingを実現できるように、仕事のやりがいを高め、在校時間を縮減する。	①エバンジェリストによる研修を行い、教職員のICT活用能力を向上させる。 ②タブレット型コンピュータを活用した児童の評価方法を研究し、校務の一層の教育DXを進める。(通年) ③やりがいのある職務遂行とのバランスを考えた在校時間の縮減を図る。 ④会議開始時間を5分間早め、終了時刻も事前通告し、効率的に行う。 ⑤シン・GIGAスクール構想におけるスクールダッシュボード活用を視野に入れた働き方改革を研究する。 ⑥全職員が当初面談で研修受講奨励した研修を受講する。(通年)	①教職員ICT活用研修の実施 ②タブレット型コンピュータを利用した評価方法の確立 ③時間外在校時間の月平均40時間の達成 ④日課表の変更による会議時間の確保 ⑤スクールダッシュボードによる児童の教育データベースフォルダの作成 ⑥研修受講奨励の実施	①定期的に活用研修を実施した。 ②動画の撮影、考察の入力、写真の引用、ワークシートの提出等様々な評価方法を研究した。 ③83%の職員が達成した。 ④勤務終了時刻までに会議を終えることができていく。 ⑤1月にスクールダッシュボードのデモ画面を確認し、本格運用に備えている。 ⑥抽選で外れたもの以外は、当初面談で研修受講奨励した研修を受講した。	A	今年度もTeams等による各種デジタル化(ライブ配信やファイルの共有等)なども含め、校務用端末を利用した業務のスリム化はかなり進んでいる。ICT活用による授業改善と評価方法の見直しも引き続き行っていく必要がある。 来年度はスクールダッシュボードの本格運用を進める中で、児童一人ひとりへの支援を効果的にやっていく。	スクールダッシュボードの運用を進め、より効果的に支援を行うとともに、業務を効率的に進め働き方改革も進めていく。

